

きょうから授業再開

機動隊の警戒下

四年生 来春卒業へぎりぎり

東京大学本部、東京教育大学本部、東京外語大学の授業が十三日、一斉に再開される。いずれも平常なら四月から始まるはずの十四年度授業で、四年生を卒業し、四月ごろ卒業するためには、ぎりぎりのタイムリミット。大学法の適用からの圧力も見のがせず、紛争直後の東大と京外語大、それ以外は、たゞ二つだけ紛争状態の続いていた東大文学部が、期せずして足並みそろそろの授業再開となった。東大と東大は二年四月より、東京外語大は一年ぶりの授業再開、三大学とも機動隊の警戒下での授業になる公算が大きく、緊張の七〇年を前にした歴史的な学園風景といえそうだ。

東教大は誓約書方式で

東大はさる九日夜、機動隊を導き、十三日からの授業入、全共同戦後の開校となつて、「防衛」の意思表示をしている。二、三層の封鎖を解除、十日、十一日の両日をロクアウトにし、大掃除をした。当分は法文二号館だけを使用、十三日午前八時の第一時間から新聞取り通りの授業をするが、金武勲系学生や助手共闘の激しい授業前準備活動が予想されている。七月の補講のさいは、連日朝よりの授業妨害が続き、講義を近くの公園や喫茶店で開催するといった事態もみられた。しかし、教官の授業拒否は全く、誓約書方式、を認めた。

この日の教授会では、さる十一日の地裁決定をたてに一部教官が「入構証方式を必要はない」と主張したが、教授会としては学生の訴訟問題は部長と学生との間の問題であつて、同教授会は一切

関知しないという趣旨に決した。誓約書の提出はすでに理系出身が実施しているが、これを文系部は「学生を無視しており」と強く反対してきた。このため教育学生の感情的対立は必要と十三日の授業再開は断りが予想される。東京外語大はさる九日夜、先月二十五日からのロクアウトを解除した。

しかし、反日共、日共同戦学生の間は、十一日東京地裁の出した「入構制限を停止せよ」との決定から大学当局と文学部教授会が対立の構図が現れている。

十三日の授業再開をひかえて入構証を拒否するさい、学生から誓約書を受けるかどうかをめぐって、大学当局と対立していた東京教育大学本部は十三日午後三時から教授会を開いて十三日からの授業再開の是非最終的な態度を話し合った。この結果、十三日午前一時に入構制限を解除し、十三日からの授業再開の是非最終的な態度を話し合った。この結果、十三日午前一時に入構制限を解除し、十三日からの授業再開の是非最終的な態度を話し合った。

入構証問題が妥結

東教大 文学部 大学側の要求のむ

文学部の授業再開を十三日にむかつて、交渉相手の誓約書に学生が多大の難題の交付方法をめぐって土壇場でもめていた東京教育大学の文学部と文学部教授会の話し合いが十三日未明ようやくついた。文学部教授会は六日、大学側が提議する開の条件として出した、最後の通告をのみ、大学側立案の提議再開計画に全教官が参加することを決めたが、入構証の発行方法をめ

が十一日の誓約書提出のなかで「学生の入構には入構証方式を必ずしも必要はない」との判断をのべているため、さきに、最後通告に反対した。版原正樹、武勲の教官が「入構証の発行は必要ない」と主張、入江学部長と各弁になったが「訴訟は学生と大学当局の間の問題で文学部教授会が関知しない」との意見が大勢

を占めたりと云った。一方、学部長長官は東京地裁の決定に従い、入構制限強化の指

入構証で授業再開

東教大 文学部

東教大文学部 学生の入構方法をめぐって学長代行と対立していた東京教育大学本部は十三日午後三時から教授会を開いて十三日からの授業再開の是非最終的な態度を話し合った。この結果、十三日午前一時に入構制限を解除し、十三日からの授業再開の是非最終的な態度を話し合った。

誓約書方式のむ

東教大 文学部も学生から誓約書

十三日の授業再開をひかえて入構証を拒否するさい、学生から誓約書を受けるかどうかをめぐって、大学当局と対立していた東京教育大学本部は十三日午後三時から教授会を開いて十三日からの授業再開の是非最終的な態度を話し合った。この結果、十三日午前一時に入構制限を解除し、十三日からの授業再開の是非最終的な態度を話し合った。

10/13 東大

10/13 朝日

16/13 日本経済

10/13 毎日

10/13 毎日

10/13 読売